

愛知県  
予算案

# 県政が輸送産業に特化

## 「暮らし・教育・福祉」は片隅へ

愛知県は16日、前年度比1.7%増の一般会計2兆5250億円の2016年度予算案を発表しました。

予算編成方針で、「厳しい財政状況ではあるものの、産業力、人財力、地域力を一段と高め、愛知の更なる飛躍、そして、『日本一元気な愛知』を作り、地域間競争、都市間競争に勝ち抜き、愛知から日本の未来をつくっていかなければならない」と県政の基本を強調しています。そして、「大企業がもうかれば、その恩恵がいずれは庶民の暮らしに回る（トリクルダウン）」というアベノミクスと同じ立場に立って、大企業応援に県の力を注ぐこれまでの大村県政の基本姿勢を一層強めた予算内容となっています。

具体的には、名古屋駅の「スーパーターミナル化」「40分交通圏の拡大」などリニア新幹線の関連事業やF C V（燃料電池自動車）の普及促進、自動走行車の実証など新たな自動車産業支援に前年に引き続き予算を投入しています。

特に注視するのは、航空宇宙産業関連予算です。昨年12月に初飛行した三菱重工のMR Jのために県営名古屋空港の駐機場（約26ha）整備として15億円（他に債務負担9億円）を計上しています。この駐機場は自衛隊の次期ステルス戦闘機F 35を最終組み立てする三菱重工小牧南工場にも接しています（下図参照）。アメリカ国防省はアジア太平洋地域のF 35戦闘機の広域整備拠点として当工場を指名しており、国はすでに今年

度と来年度予算で30億円確保し、機材購入や施設改修に充てられています。これが進めば県営名古屋空港は米軍機なども使用する「重要な軍事拠点」と変貌する危険性があります。

更に来年度予算で目立つのは、「観光の推進」と「イベントの開催」です。知事は記者会見で、「大会を誘致し、地域を盛り上げ活性化する」と力を込めたと報道されています。常滑の空港島内に300億円以上かけて大規模展示場を建設します。準備室を立ち上げ10人の職員を貼り付けます。また、約45億円かけてゼロ戦展示もありうる航空ミュージアムを県営名古屋空港内に建設し、自衛隊小牧基地も含めたツアーコースを整備します。すでに決まっているラグビーW Pでは飽き足らないのか、アジア競技大会やユニバーシアード、世界陸上選手権、世界水泳選手権、バスケ、レスリング、卓球、柔道、バレーボール、フィギュアスケートなどの開催可能性の検討など掲げています。

県立高校の校舎はボロボロ、特別支援校は生徒も先生もぎゅうぎゅうに詰め込み、県営住宅は大規模修繕もなしで老朽化のまま放置、医療・介護・保育は市町村頼みなど、暮らしや教育は県政の片隅に追いやられています。

## 県民要求が一部で前進

12年ぶりに誕生した日本共産党愛知県議団は5月議会以来、県民の皆さんに支えられながら県民要求の実現を求めてきました。

「特養の入居待機者を解消せよ」の声が届き、特養やグループホームなどの介護施設整備費は倍増（75億円）し増床数も2.6倍に増えました。

「ベランダや玄関ドアを修繕して」と県営住宅入居者とともに訴えてきましたが、この2年間で8億円弱（22%）が増額しました。

特別支援校の新設やスクールバスの増車、私学助成での経常費補助や入学金・授業料補助が増額しました。また、愛労連などが要求してきた公契約制度の条例制定、県議会議員選挙の広報発行の条例制定も行われることとなりました。これらは県民の皆さんの貴重な成果です。

### 県営名古屋空港の駐機場整備

- ・駐機場の新設 南地区 約 2.7ha、北地区 約 2.0ha
- ・既設駐機場の改修 約 21.7ha（駐機スポットの再配置等）
- ・駐機場進入路の整備 約 0.5ha

